

# 分析レポート

## 調理済み加工食品の利用に関する調査速報

研究員 宮崎 達郎

### 【概要】

2018年3月に株式会社ネオマーケティングの「iResearch」サービスを利用して、20代から60代までの世帯の中で主に食料品の買い物を担う男女1,000名（各年代200名ずつ）に、調理済み加工食品の利用に関するWebアンケート調査を実施した。本レポートでは結果の一部を簡潔に紹介している。

- 1) 本調査のサンプリングの上では、調理済み加工食品をほとんど食べない世帯の割合も6割近くと、週1回以上食べる世帯の割合よりも大きくなった。
- 2) 調理済み加工食品は若い年代ほど食べる頻度が高い傾向がある。
- 3) 調理済み加工食品のメリットとしては「調理の手間を省くことができる」、デメリットとしては「食品添加物に不安を感じる」が最も多く挙げられた。

### 1. 調理済み加工食品を食べる頻度

調理済み加工食品を食べる頻度については、「冷凍食品 主食系（冷凍炒飯、冷凍おにぎり等）」「冷凍食品 惣菜・おかず系（冷凍餃子、冷凍ハンバーグ等）」「レトルト食品 主食に合わせるソース系のもの（パスタソース、レトルトカレー等）」「チルド食品 惣菜・おかず系（ミートボール、チキンナゲット等）」の4つの商品群について設問した。調査票上では、各分類の定義の説明と該当する商品の具体例を写真で示している。図1は各分類の食べる頻度を整理したものである。どの分類でも、ほとんど食べない世帯（「それ以下の頻度」「まったく食べない」の合計）の割合は6割近くを占めている。

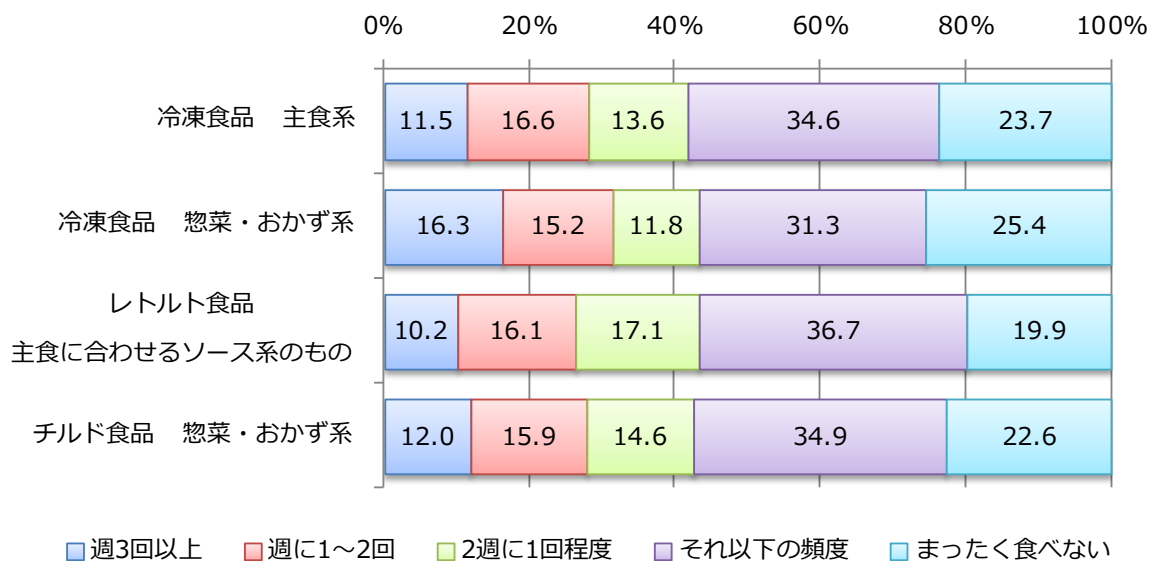


図1 調理済み加工食品を食べる頻度

「冷凍食品 主食系」について年代別に整理したものが図 2 である。ゆるやかな傾向ではあるが、若い年代ほど、食べる頻度は高い。その他の分類も「冷凍食品 主食系」とおおむね同様の傾向を示す。

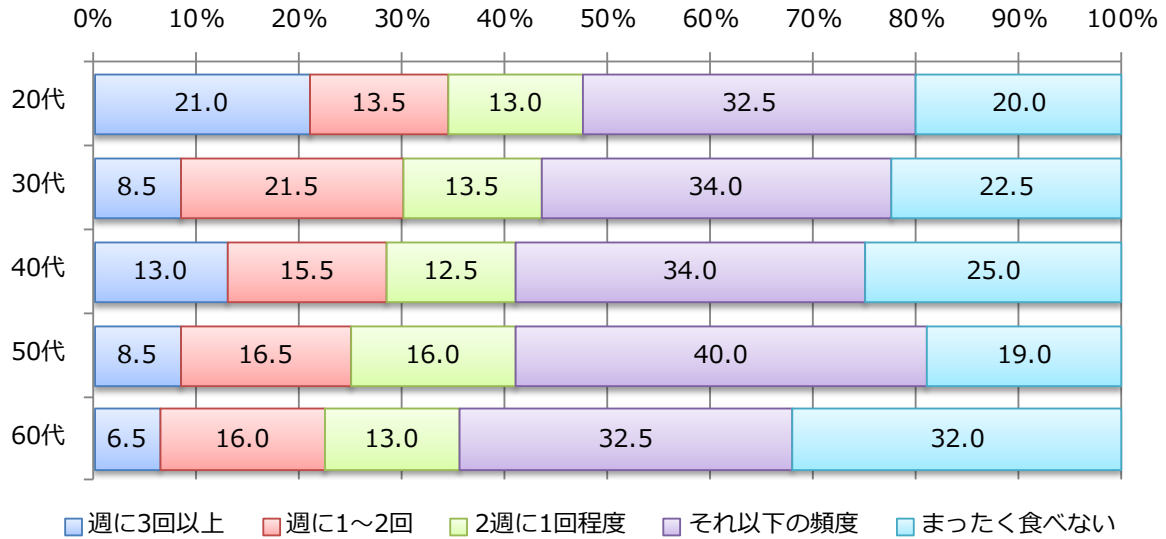


図 2 年代別 「冷凍食品 主食系」を食べる頻度

## 2. 調理済み加工食品のメリット・デメリット

調理済み加工食品に感じるメリットとデメリットの回答を整理したものが、図 3 と図 4 である。メリットでは「調理の手間を省くことができる」が 71.2%、デメリットでは「食品添加物に不安を感じる」が 39.5%と最も回答率が高かった。分析レポートの 2018 年 1 月号、2018 年 3 月号でも紹介したが、消費者の食品添加物への不安は大きい。

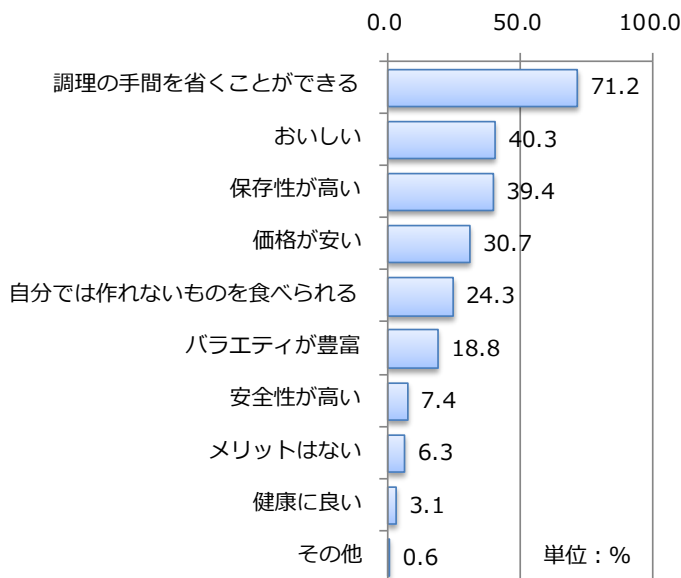


図 3 調理済み加工食品のメリット

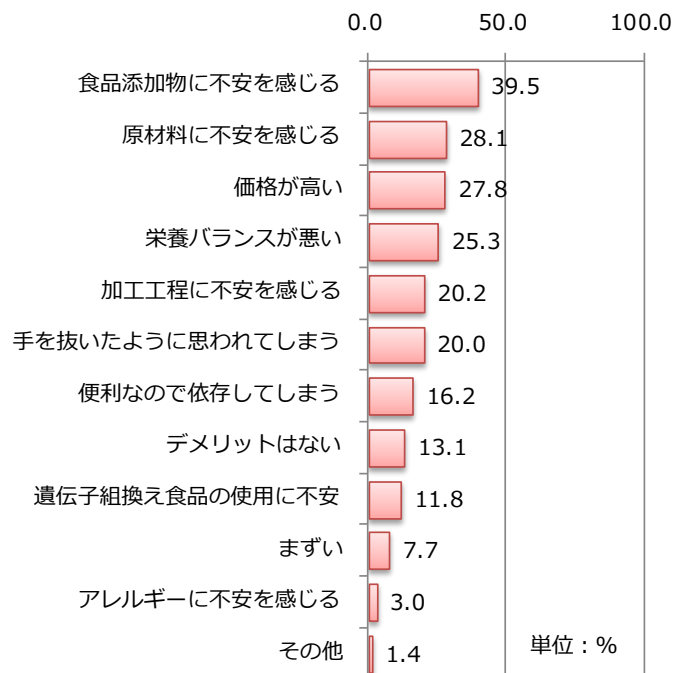


図 4 調理済み加工食品のデメリット

### 3. まとめ：本調査について

以上に、調査結果の一部のデータを掲載した。なお、本調査では、調理済み加工食品の購入先や、原材料表示、遺伝子組み換え表示等表示に対する支払意思額、家族構成や就労状況といった社会環境についても調査項目を設けている。これらのデータは公開研究会（直近では2018年9月4日に京都で開催）や生活協同組合研究誌での公開を予定している。

調理済み加工食品は共働き世帯の増加に伴い、利用の拡大が見込まれる商品群であり、生協にとっても重要な品目であるため、今後も様々な調査研究を通して消費の動向や要因について理解を深めていきたいと考えている。

本件に関するお問い合わせは、当研究所研究員 宮崎達郎までお願いいたします。

Tel : 03-5216-6025

Mail : tatsurou.miyazaki@jccu.coop

- ・本資料は個人の見解を示したものであり、研究所の見解を代表するものではありません。
- ・本資料は作成時点で当研究所が一般に信頼できると思われた情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性および完全性を保障するものではありません。
- ・内容につきましては、社会情勢の変化等を踏まえて、変更される場合があります。